

2014.7.25 近藤コメント (2014.7.25 11:52 wrote)

ダム・河川の運動に関わるあるメーリングリストで、ある人が「三重県における中部電力・シーテックの関係する事業への異議を唱える運動で、公安のカゲがちらついた」と述べ、「近藤さんのかかわっている範囲で中部電力にかかわることはありませんでしたでしょうか？」と質問されたことへの返信。

////////////////////////////////////

私は、徳山ダム反対運動を始めた 1996 年に、はじめて中部電力（株）の株主総会に行きました。当時は徳山ダムの下の杉原ダムというのを中部電力が建設して、揚水発電を行うとしていたからです。

杉原ダム建設予定地にはイヌワシが確認されていました。

揚水発電と原発の関係はご承知の通り。

亡夫の母親（近藤久子）が中電の株主だったので、その入場券を使いました。

運良く発言機会をとって、このことについて質問をしました。

また、隠すこともないので、株主総会の前後は、ずっと脱原発の立場で株主総会にかかわってきた人たちと行動をとっていました。

翌年の 1997 年に同じように株主総会の会場に入ろうとしたら、屈強な「社員」に取り囲まれて入場を拒まれ、少し抵抗したら腹で（向こうはスクラムを組んで対峙してきた）路上にコケさせられました。

「あんたは近藤久子ではない、本人でないのだから入れない」

1000 人からの参加者のある株主総会です。

入場券の名前と一致しているかの本人確認なんてその場ではやっていません（後からう監視カメラで確認しているかどうかは知りませんが）

夫の名前の入場券で妻が入場する（逆も）なんてことは「よくあること」です。

つまりは前年の株主総会を分析し、「こいつは本人名義の株はもっていない。次のときは入場させない。顔写真とかで確認して入口で排除」と決めて対応したわけです。

その分析も、そしてあれだけ大勢が来る株主総会でピンポイントで「面割り」して排除するなんて、単なる「中部電力総務課」がやれることではない。

公安が社員の顔をして排除したか、そもそも公安が「社員」で入り込んでいるのか・・・

上記は私自身の経験ですが、古くから「脱原発」に取り組んでいる人たちは、ずっと公安のカゲを感じてきています。

原子カムラを構成する電力会社は、行政を動かし、公安警察をも使う、ということみたいです。その一端がウラガネの形で表に顕れ、また今度は「大垣警察署警備課/シーテック」の形で表に表れた、ということでしょう。

追記 : 公開されている岐阜県警の退職者再就職一覧表から(平成25年度退職分)

< 8 城下雅徳 組織犯罪対策統括官 → 中部電力(株 岐阜支店 ) >

